

< この国のかたちを考える > — 対立をこえて、調和を目指して —

9-12月期の土曜午後講座では、人と人との関係が損なわれる現代社会にあって、どうすれば人々の間に「対立」ではなく、「調和」を生み出していくことができるか。

被害者と加害者の関係にあって、怒りや憎しみから、ゆるし合い受け入れ合う信頼関係を作りあげていくには、どうしたらよいか。

また、格差社会といわれる中、子どもや女性など弱い立場にある人たちに、どのように寄り添い支えていけるのか。

日本社会の現実を見つめ、課題と解決策を考え、希望を見いだせる道を探っていきます。

日程	講演タイトル	講師
9月16日	【子どもたちに寄り添う ～いじめ・虐待・少年非行の現場から～】	坪井節子 (弁護士・カリヨン 子どもセンター理事長)
9月30日	【修復的司法 (正義) の実現可能性 - 被害者・加害者・コミュニティの再生を目指して -】	高橋則夫 (早稲田大学法学部教授)
10月7日	【聖書の世界が示す、究極のゆるしとは・・・ ダヴィデの物語から】	森一弘司教 (真生会館理事長)
10月14日	【医療事故を経験した家族が病院の医療安全 担当者になって】	豊田郁子 (NPO 法人「架け橋」 理事長)
10月28日	【子ども食堂 (高円寺教会)】の現場から	石川千明 (高円寺教会 「子ども食堂」責任者)
11月11日	【経済政策は何のため、誰のため、何時のため】	浜矩子 (同志社大学大学院 ビジネス研究科教授)
11月18日	【人が人らしく働ける社会へ～「正社員消滅」の 衝撃を超えて】	竹信三恵子 (和光大学現代人間 学部教授)
12月2日	【人間の顔をした財政を取り戻す～ 『頼り合える社会』をめざして】	井手英策 (慶應義塾大学経済 学部教授)

お申込・お問合せ 一般財団法人真生会館

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 33 番地 4
Tel 03-3351-7121・Fax 03-3358-9700
E-mail gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp
URL <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp>

受講料：一回毎¥1,000 学生、学生証提示にて無料

お申込：氏名・連絡先・参加日時を明記して下さい。

お名前

連絡先

参加希望日

講師プロフィール

坪井節子（弁護士・カリヨンこどもセンター理事長）

1953年生まれ。弁護士として、いじめ、少年犯罪、虐待などに苦しむ子どもたちの相談、救済活動に携わる。2004年社会福祉法人「カリヨンこどもセンター」の理事長として、十代の子どものためのシェルターや自立援助ホームを運営。毎年、東京弁護士会の弁護士と子どもで創る芝居を行なっている。

高橋則夫（早稲田大学法学部教授）

1951年東京生まれ。75年早稲田大学法学部卒。84年同大学院法学研究科博士後期課程単位取得修了。84年東洋大学法学部専任講師、以後、助教授・教授を歴任。その間89～90年マックス・プランク外国・国際刑法研究所（ドイツ）留学。96年早稲田大学法学部教授。04年早稲田大学大学院法務研究科・法学部教授。『共犯体系と共犯理論』『刑法における損害回復の思想』『修復的司法の探求』（いずれも成文堂）など著書多数

豊田郁子（新葛飾病院職員・NPO法人架け橋）

2003年医療事故によりご長男（当時5歳）を亡くし医療事故・医療安全に関する講演活動を始める。2004年新葛飾病院に勤務し、「医療安全対策室」と「患者支援室」を開設。2008年「患者支援室」が医療の質・安全学会による「新しい医療のかたち賞」を受賞。2017年6月まで、医療対話推進者として院内の「患者・家族支援窓口」を担当。現在は、患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋にて、医療対話推進者の養成に携わっている。著書、『うそをつかない医療—患者と医療者をつなぐ仕事』。

石川千明（高円寺教会「子ども食堂」責任者）

1938年生まれです。60歳の定年まで生命保険会社に勤務。私も子どもの頃ひもじい経験をしましたので、今、食事を充分取れない子どもたちがいることを知り、少しでもお役に立てればと「子ども食堂」を始めました。

浜 矩子（同志社大学大学院ビジネス研究科教授）

東京都出身。1975年、三菱総合研究所入社。ロンドン駐在員事務所所長、兼駐在エコノミスト、経済調査部長などを経て、2002年より現職。専攻はマクロ経済分析、国際経済学、国際金融論、欧州経済論。

著書：『世界経済の「大激転」』（PHPビジネス新書）、『新・国富論』（文春新書）、『国民なき経済成長』、『アホノミクス完全崩壊に備えよ』（以上、角川新書）、『浜矩子の歴史に学ぶ経済集中講義』（集英社）、『どアホノミクスとトラパンノミクスどっちも「アホ」たる30の理由』（毎日新聞出版）『「通貨」を知れば世界が読める』（PHPビジネス新書）など多数。

竹信三恵子（和光大学現代人間学部教授）

東京都生まれ。1976年朝日新聞社入社。シンガポール特派員学芸部次長、編集委員兼論説委員などを経て2011年から現職。「ルポ雇用劣化不況」（岩波新書、日本労働ペンクラブ賞）、「ルポ賃金差別」（ちくま新書）など多数の著書がある。09年に貧困ジャーナリズム大賞受賞。主な活動：フェミニスト経済学会幹事。NPO法人官製ワーキングプア研究会理事。NPO法人アジア女性資料センター理事。

井手英策（慶應大学経済学部教授）

1972年生まれ。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。日本銀行金融研究所、東北学院大学、横浜国立大学を経て、現在、慶應義塾大学経済学部教授。専門は財政社会学。日本医師会、総務省、全国知事会、全国市長会等の各種委員のほか、朝日新聞論壇委員、小田原市「生活保護行政のあり方研究会」座長なども歴任。著書に『経済の時代の終焉』（岩波書店）、『18歳からの格差論』（東洋経済新報社）ほか多数。2015年度大佛次郎論壇賞、2016年度慶應義塾賞を受賞。